

## 日本新生児成育医学会 2021年度 第5回理事会 議事録

日 時：2021年11月15日（月）10：00～12：00

開催方法：Web会議システム zoom を利用

出席者：早川昌弘，諫山哲哉，大曾根義輝，日下 隆，高橋尚人，長 和俊，中西秀彦，長谷川久弥，  
廣間武彦，福原里恵，細野茂春，森岡一朗，芳本誠司，和田和子，和田雅樹（各理事），  
中村友彦，与田仁志（各監事），東海林宏道，北東 功（各幹事）

欠席者：茨 聡，河井昌彦，河野由美，飛弾麻里子，水野克己（各理事），松本 敦（幹事）

（敬称略）

議 事：

### 1. 理事長報告

#### 1) 次回社員総会の件

2021年度社員総会は12月13日（月）16：00～18：00にweb開催にて行う。

#### 2) 通信理事会議決結果報告の件

決議事項4件，その他連絡事項は12件であった。

#### 3) 寄付の件

株式会社アローズより2万円，株式会社メトランから4万円をそれぞれご寄付いただいた。学会ホームページに社名を掲載している（[http://jsnhd.or.jp/kifu\\_list.html](http://jsnhd.or.jp/kifu_list.html)）。

#### 4) 代議員辞任の件

代議員の田村正徳先生より埼玉医科大学の教授職を辞して，現在の仕事に専念するため，代議員を辞任したいと連絡があり承諾した。

#### 5) The 4th Taiwan-Korea-Japan Joint Congress on Neonatology の件

台湾新生児学会より2022年3月19・20日に台湾の台中で開催予定である旨ご連絡があった。Webが公開され次第，本学会のTravel Awardの選考を開始する予定である。COVID-19の状況によってはオンライン開催への切り替えを行うと報告があった。

#### 6) 文献許諾使用料の件

メテオ社の7～9月の文献使用料は合計990円（今年度合計3,102円）であった。支払い金額が税込みで10,500円を超えた時点で指定口座に振り込まれることになっている。昨年度分は合計5,412円で，5月31日に振り込まれた。

#### 7) ロクロニウムの件

ベクロニウム臭化物の製造・発売中止が決定したため，今後，ロクロニウム臭化物を使用することとなる。しかし，日本麻酔科学会から発刊されている「麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン第3版」には「特に乳幼児における持続投与法は推奨されない」と明記されているため，11月4日に関連学会とともにガイドラインの文言変更に関する要望書を日本麻酔科学会へ提出した。

#### 8) 米国小児科関連学会（Pediatric Academic Society〈PAS〉Meeting）2022年度学術集会における発表者推薦の件

本学会から鈴木紗記子先生（名古屋大学医学部附属病院小児科）を推薦した。各分科会からの推薦者の中から2名が小児科学会で選考される予定である。

#### 9) 理事長職務報告

通信理事会の発信，決算書類の確認，ロクロニウムの対応，台湾とのやり取り等を行った。

#### 10) 新生児における特定医療にかかる文書

新生児集中ケア認定看護師養成課程が休校しており現在再開のめどが立っていないため、新たに「新生児集中ケア認定看護師養成課程+特定行為研修」のコースを立ち上げることについて日本新生児看護学会の内田美恵子理事長より意見を求められ、内田先生、中村友彦先生と意見交換を行った。

## 2. 協議事項

第1号議案：公益社団法人第3期（2020年10月1日～2021年9月30日）事業報告及び決算書類承認の件（早川理事長・和田和子理事）

経常収益は 71,725,469 円、経常費用は 54,416,031 円、当期一般正味財産増減額は 17,309,438 円となった。しかしこれは COVID-19 の影響が大きく、一時的な状況であることを考慮すべきであり、今後も収入増、支出減の努力は続ける必要があると報告があった。中村・与田監事より監査報告があり、出席理事 14 名から承認された。

第2号議案：新名誉・功労会員推戴の件（早川理事長）

新名誉会員 1 名、新功労会員 3 名を推薦することが出席理事 14 名から承認され、ご本人に諾否を伺うこととなった。12 月に Web で社員総会が開催されるため、感謝状は郵送でお送りする予定である。

第3号議案：第68回（2024年）学術集会 会長選任の件（早川理事長）

出席理事 15 名から承認され、中村友彦監事が第68回会長に決定した。現時点では 2024 年 11 月 8 日（金）～10 日（日）に長野県松本市のホテルブエナビスタで開催予定である。

第4号議案：学術集会の余剰金の件（早川理事長）

第65回学術集会会計で余剰金が発生したため、特定非営利活動法人シロアム友の会へ 2,000,000 円、北海道大学へ 1,334,096 円を寄付したところ、内閣府から寄附金の給付事業は本学会の事業活動に挙げられておらず、公益目的事業会計に計上できない旨の連絡があった。協議の上、今回は会計処理上、法人会計から支出することとなった。

今後も学会から寄付を行う場合は、内閣府へ事業追加の申請を行わなければならない。また、今後の学会の財政を考え、2022 年 11 月の学術集会以降については余剰金の 1/2 について学術集会長による寄付は廃止すること、また欠損金や学術集会補助金の取り扱いについて議論されたが、次回理事会にて再度議決することとなった。

第5号議案：魚油由来静脈注射用脂肪乳剤（Omegaven<sup>®</sup> オメガベン）の保険適用承認促進についての要望書の件（早川理事長）

杉浦崇浩先生（豊橋市民病院小児科）より要望書のご提出があった。小児科学会が未承認薬の要望書を提出することになっているため、標記薬剤について、小児科学会と足並みを揃えて提出することが出席理事 14 名から承認され、薬事委員会にて対応することとなった。

第6号議案：医療の質向上委員会：新規サーベイランス「軟骨低形成症」の件（長委員長）

新規対象疾患について応募があったことが報告され、出席理事 13 名から承認された。

第7号議案：男女共同参画推進委員会：女性医師の活動推進についての提案（河野委員長 代 早川理事長）

当面の間、学術集会における女性座長の割合を、一般演題・一般演題以外ともに少なくとも 20% 以上にすることが協議され、理事長から学術集会会長に要望書を提出することが出席理事 14 名から承認された。

第8号議案：感染対策予防接種委員会：「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応」改定の件（森岡委員長）

前回の改定から 1 年経ち、母子同室のエビデンスが蓄積されてきたため「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応」について改定を行った。本件は迅速性を重視し発出に努め、委員会で内容の精査を行った経緯が報告された。審議を行い、総論としては出席理事 13 名より承認されたが、各論については意見を森岡理事に集約し、適宜議論することとなった。

第9号議案：ハーベスト株式会社からの要請について（早川理事長）

早川理事長宛にハーベスト（株）より機関紙「アネティス」への執筆者紹介依頼があり、審議の結果、同社に文書で協力要請内容を提出してもらうこととなった。

第10号議案：医療の標準化委員会：CDHガイドライン外部評価の件（諫山委員長）

新生児先天性横隔膜ヘルニア（CDH）研究班が、診療ガイドラインの改定作業を行っており、本学会宛に外部評価依頼があったため、標準化委員会メンバーで対応した。学会として承認の依頼があり、出席理事13名から承認された。

第11号議案：社会保険委員会：運営規定変更について（和田雅樹委員長）

社会保険委員会に新たに副委員長を置くことについて出席理事13名から承認された。

第12号議案：小児専門管理栄養士制度合同協議会からの委員候補者推薦依頼（早川理事長）

小児専門管理栄養士制度合同協議会より委員候補者の推薦依頼があった。水野理事に推薦を依頼することが出席理事13名から承認された。

### 3. 第66回学術集会について（長谷川会長）

2022年11月24日（木）～26日（土）にパシフィコ横浜 会議センターにて新生児医療—未来への贈り物—をテーマに開催予定で、現在、講演・シンポジウム等の企画の募集を行っている。企業協賛が集まらず苦慮していることが報告された。

### 4. 第67回学術集会について（細野会長）

第67回は2023年11月2日（木）～4日（土）パシフィコ横浜で開催予定である。

### 5. 庶務報告（和田理事）

会員数が2,523名と微減傾向である。演題発表の機会がなくなっており、新入会が少なくなっているため、積極的な勧誘をお願いしたいと呼びかけられた。物故会員4名について報告された（名誉会員の井村總一先生・松尾 保先生、功労会員の井上賢太郎先生・鳥居昭三先生）。

### 6. 各種委員会報告

#### 1) 広報委員会（水野克己委員長 代 早川理事長）

##### • ツイッターの件

公式アカウントは、新生児科医師対象（第7回胎児MRI研究会学術集会など）・一般向け（医療機器が必要なこどものための災害対策マニュアルなど）・医療従事者向けに発信している。フォロワー数は2,847である。広報部アカウントは、ワクチン、母乳バンク、気管カニューレ、食事などを発信している。フォロワー数は1,201である（10月15日現在）。

##### • 学会ホームページリニューアルの件

「会員・医療関係の皆様へ」「医学生・研修医の皆様へ」「一般の皆様へ」の3つに大項目を設定し、見やすい画面を目指して構築中である。構築費については前回理事会でご承認いただいたが、デザイン費については理事長決済でご裁可いただいている。

#### 2) 社会保険委員会（和田雅樹委員長）

• 新生児特定集中治療室管理料に関しては、慢性肺疾患合併児の加算期間の延長について日本小児科学会 中林洋介先生を通じて厚労省と検討中である。

• 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準（患者要件）のうち、外科疾患症例数に関して（開胸・開頭・開腹手術数が年間6件以上は内視鏡手術も加えて欲しい旨）厚労省に検討を行っていただいている。日本小児外科学会にも確認済み。

• NO吸入療法の治療期間の延長についてもNOそのものの新生児領域での薬事の認可が得られていないため、薬事委員会と協力して検討していく予定である。

#### 3) 将来構想委員会（高橋委員長）

• 本学会と新生児医療連絡会で行った全国調査の解析費用について、当初の見込みより費用が増加したため、

その経緯について報告があった。

- 第2回委員会を10月7日(木)にオンライン開催し英文誌発刊の位置付けについて議論したところ、学術集会、学会ホームページなどの英語化は推進すべきだが、英文誌については和文誌でも投稿が減っている現状での発刊は難しいのではないかとされた。また制度面として、認定フォローアップ医制度の設立に多くの賛同と期待する意見が述べられた。研究の推進については、若手の会員を増やすには必要だが研究助成に拘らなくても良いとされ、特にNRNとの連携に期待する意見があった。最後に、特に楽しい学会にすること、将来構想には次世代を交えて議論することが重要とされ、次回オンラインで次世代の会員を含めて委員会を行うこととした。
- 4) 倫理委員会(福原委員長)
- 8月5日(木)および10月6日(水)にオンラインで委員会を開催し、第66回学術集会における倫理委員会の企画について検討協議した。
  - ワークショップの企画(公開ワークショップ形式)については倫理的な課題をテーマにした模擬事例を作成し、これについてパネリストとなる多職種および家族の方にご意見をいただきながら意見を出し合うようなシンポジウムを計画していて、予後不良であることを家族が受け入れられないケースを念頭に作成予定である。これまで行ってきた大人数でのグループワーク方式については、継続したいという希望が多かったが、来年度が対面でできるかどうか不確定な部分もあるため断念した。
  - 教育講演(小児科学会専門医単位取得の申請を希望)  
小児救急・PICUなど新生児と異なる立場の先生に予後不良のお子さんをどのように対応されているか(看取り、在宅をすすめるなど)をお伺いしたい、というコンセプトで北九州市立八幡病院小児救急・小児総合医療センター長の神蘭淳司先生を候補として打診中である。
- 5) 感染対策予防接種委員会(森岡委員長)
- 「早産児への抗菌薬使用方針ならびに各施設の多剤耐性菌感染対策のアンケート調査」と「NICUにおけるロタウイルスワクチンの定期化への対応に関するアンケート」は、通信理事会の承認を経て実施し、集計中である。
  - 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)第5波:医療体制のひっ迫に際しての妊婦のコロナ感染症に対する対応のお願い(続報)」を作成し、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、日本新生児成育医学会の連名で2021年8月10日に各学会ホームページに公開した。
  - 「抗RSウイルスモノクローナル抗体製剤の使用に関する要望書」を作成し、理事会の承認を得て、日本新生児成育医学会、日本小児呼吸器学会、日本小児循環器学会の3学会の連名で2021年8月26日に厚労省に提出した。
  - 「ろ紙を用いた新生児尿中サイトメガロウイルス核酸スクリーニング検査の陽性判定時の対応について」を作成し、通信理事会の承認を得て、2021年10月26日にホームページに公開した。
  - 現在、本学会から公表している「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について」の改訂作業を行っている。
- 6) 教育委員会(中西委員長)
- 2021年8月28日(土)に第7回医学生・研修医向けNICU入門セミナーを初のオンライン開催にて行った。最大視聴者数は56人であった。オンデマンド講義、ライブ講義、施設紹介、小グループディスカッションなど企画した。全体を通じての意見は「大学院進学への迷いに対して参考になった」「開業された先生のお話も非常に参考になった」などの声が挙がり、各自にとって将来のビジョンが描きたい機会となったと思われる。バーチャル施設見学やオンデマンドセミナーも好評で講義に関する評価はいずれも「期待通り」「期待以上」であった。今後の進路については「新生児・小児医療をやりたい」を志望する参加者が全体の9割近くを占め、中でも「新生児と小児医療をバランスよくやりたい」という意見が多くみられた。

- 第24回教育セミナーは2021年11月27日(土)・28日(日)に久保田真通先生(倉敷中央病院)を実行委員長としてオンライン開催を行う予定である。
- 7) 男女共同参画推進委員会(河野委員長 代 早川理事長)
    - 2021年9月8日(水)に委員会を開催した。全会員に占める女性の割合は全体で35%であり、20代、30代(ピーク)、40代が比較的多く、40%を超えている。代議員の割合は17%、委員の割合は20%。2019年度の学術集会の発表者は29%、一般演題座長8%、一般演題以外座長22%であった。以上の結果を踏まえ、会員として新生児医療に継続して関わっていくことを促すために、女性医師が積極的に学会活動に参加している姿を見せること、若手~中堅女性医師も積極的に発言していい雰囲気をつくることが必要なことから、まずは理事会に審議事項を提案することにした。
    - 若手女性医師の会のような情報・意見交換の場所を作ることを検討していく予定である。
    - 次回学術集会でのWSまたはシンポジウムを企画している。
  - 8) 医療の標準化委員会(諫山委員長)

新生児医療の科学的根拠に基づく診療ガイドライン作成グループの名称を、JEBNeo: Japan Evidence Based Neonatologyと決定した。JEBNeoの全体会議を9月2日(木)に行い、全員で方向性を確認した。また、JEBNeoメンバーへアンケートを行い、自己紹介、希望ガイドライン(CLD, PDA, その他)、ガイドライン作成の経験の有無、などを調査した。また、今後、毎月一回の全体会議を行いながら、ガイドライン作成を進めていく予定である。
  - 9) 産科医療補償制度対応委員会(細野委員長)

特になし
  - 10) 診療委員会(芳本委員長)

特になし
  - 11) 医療安全委員会(大曾根委員長)

特になし
  - 12) 災害対策委員会(茨委員長)

特になし
  - 13) 医療の質向上委員会(長委員長)

特になし
  - 14) 調査研究審査委員会委員会(高橋委員長)

特になし
  - 15) 薬事委員会(飛弾委員長)

特になし
  - 16) 学会誌編集委員会(河井委員長)

特になし
  - 17) 国際渉外委員会(日下委員長)

特になし
  - 18) 総務委員会(和田委員長)

特になし
  - 19) 学術委員会(長谷川委員長)

佐多フェローシップはCOVID-19の影響で延期になっていた杉野政城先生(四国こどもおとなの医療センター)が2022年4月~6月に渡英予定である。
  - 20) 利益相反委員会(廣間委員長)

特になし

21) その他報告

- 第2回周産期医療に係る第8次医療計画に向けた勉強会について（中村監事）

2024年から第8次医療計画が開始する。2022年度中に厚労省が各都道府県向けに指針を出し、周産期医療体制の整備について検討を行う予定である。勉強会のメンバーは日本産婦人科医会、日本助産師会、日本周産期・新生児医学会であり本学会は含まれていないため、新生児領域の意見を取りまとめた旨報告があった。今回の医療計画の改定は働き方改革と密接になるとされる。